

焼却灰受け入れ反対

伊賀の
18団体 処理会社に要望書

東日本大震災で生じたがれきの広域処理をめぐり、伊賀地域と周辺で有機農業に取り組む十八団体は二十六日、廃棄物処理会社・三重中央開発（伊賀市）に、県から要請さ

に要望書を渡した。

要望書では、会社が焼却灰を受け入れた場合、周辺農家が長期的に放射線を測定するモニタリングを要求されること、風評被害の可能性が高まること、被害が発生した場合の賠償の法的整備がされていないことなどを挙げ、受け入れないよう訴えている。

十八団体のほか、この焼却灰については、鈴木英敬知事が七月中旬、会社を訪れ、受け入れを要請。会社は「できる限り協力したい」と応じていた。

（山田雄之）



井上専務（左）に要望書を渡す村山さん＝伊賀市予野の三重中央開発で

れを支援する市民団体「震災瓦礫広域処理反対・三重ネットワーク」なども同日、焼却灰を受け入れないよう求める要望書を提出した。

震災がれき